

教育研究業績書

2018年11月08日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：玉木 朋子

研究分野	研究内容のキーワード
終末期ケア，シミュレーション教育，高齢者のQOL，高齢者への医療サービス提供に関する調査，ケアに関するメタアナリシス	終末期ケア，終末期高齢者，看護教育，シミュレーション教育
学位	最終学歴
看護学修士	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程 修了 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 在学中

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 武庫川女子大学 成人ⅠA 生殖器がんの手術を受ける患者の看護 授業	2018年6月現在	成人看護ⅠAの講義で生殖器がんの手術を受ける患者の看護の授業を担当した。配布資料を穴埋め方式にし、授業に注意をむけるよう工夫した。身体的ケアだけではなく慎重なかかわりが必要とされる部位の手術であることを踏まえて、ボディイメージや性に関する看護について臨床での事例を提示しながら教授する工夫をおこなった。
2. 武庫川女子大学 成人看護学の臨地実習指導	2017年10月～現在	病院の周手術期、急性期の臨地実習の指導に同行している。実習は15日間で初日にオリエンテーション後に術後観察と早期離床の援助に関するシミュレーションを実施し、学生の実習への不安を解消するための機会を持っている。臨地実習では学生の看護計画立案、実施、評価や病態理解、術前・術後特有の観察ポイントなどについて指導をおこなった。カンファレンスでは急性期看護に関する議論がおこなえるよう支援をおこなった。
3. 武庫川女子大学 成人看護学演習	2017年～現在	武庫川女子大学看護学部演習科目「成人看護学演習Ⅱ」においてBLS演習を実施した。実技をメインに計画し、心臓マッサージ、気道確保、AEDの使用法、院内急変時対応、バッグバルブマスク、アンビューバックの使用法、気管挿管のデモンストレーションと演習をおこなった。演習直後に実施した小テストでは全員が8割以上の得点を獲得することができ、知識と技術を統合した学びへの貢献となったと考える。
4. 三重大学 共通教育科目 現代社会と健康	2015年4月～2016年3月	三重大学の全学共通の教養科目で学生190名を対象に現代社会と健康について講義をおこなった。おもに高齢社会と死に対する教育について講義した。講義終了後のアンケート調査で、学生から関心を示す反響が多数あったとの報告を受けた。
5. 三重大学 成人看護学実習	2015年4月～2016年3月	学生が急性期の患者を受け持つ実習に同行し、放射線療法、化学療法を受ける患者や術後の患者への看護や看護過程の展開の指導をおこなった。
6. 三重大学 成人看護学演習	2015年4月～2016年3月	成人看護学演習で術直後の観察の演習を担当した。その他のすべての演習においても役割を担った。
7. 三重大学 成人看護学Ⅲ	2015年4月～2016年3月	成人急性期看護学の各論。急性期の患者とがんサバイバーとなった患者の事例をもとに看護展開をおこなう授業で6人グループを2つ担当した。
8. 三重大学基礎ゼミナール主担当	2015年4月～2016年3月	4年生を対象とした卒業論文作成にむけてのゼミナール1単位の主担当。看護研究の方法、データベースを利用した文献検索、文献のクリティークの方法について講義をおこなった。実際に学生に原著論文の文献検索、クリティークを実施してもらい、発表会を実施。質的研究と量的研究それぞれの文献の読み方や査読法について理解を深めた。

2 作成した教科書、教材		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 三重大学医学部看護学科 助教	2015年4月～2016年3月	成人看護学講座で助教として従事した。成人看護学演習、成人看護学実習、基礎ゼミナールで量的研究を担当、全学の共通教育科目での授業を1コマ担当した。
2. 滋賀医科大学 看護学科非常勤講師	2014年5月～2015年3月	成人看護学実習、基礎看護学卒業研究の非常勤講師として2年間従事した。成人看護学実習では4グループ担当し急性期看護学の臨地実習指導をおこなった。基礎看護学卒業研究では学生2名を担当し、卒業論文の作成に関する指導をおこなった。
3. 兵庫医療大学看護学部 非常勤講師	2014年	基礎看護学実習の臨地実習指導をおこなった。看護課程に関する指導をおこなった。
4. 大阪医療センター附属看護学校 非常勤講師	2013年4月～2014年3月	情報科学の授業（講義・演習）3クラスに対して7コマずつ実施。講義・演習内容（コンピューターリテラシー、文

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. 宝塚大学看護学部 非常勤講師	2012年9月～2014年3月	書作成ソフト、表計算ソフト、パワーポイント、プレゼンテーションスキル) について担当した。 基礎看護学実習、成人看護学実習、成人看護学演習 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱの臨地実習指導を2年にわたりおこなった。成人看護学では術後観察の演習を担当した。成人看護学実習では急性期看護について臨地実習指導をおこない、看護展開や病態生理の理解について学生の支援をおこなった。
4 その他		
1. 武庫川女子大学附属高校附属高校2年生のスーパーサイエンスコース 科学演習実験Ⅱ	2016年～現在	武庫川大学附属高校の2年生に対する体験講義・演習(大学の科学的な根拠に基づく授業を体験する講義・演習)の計画、実施に携わった。寝心地を客観的に評価するためにチェックシートの作成や授業を楽しく受けれるような動機付けとなるセッティングの工夫をおこなった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師免許	2012年	
2. 看護師免許	2002年	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学 学生委員として体育祭の応援合戦参加への支援	2018年4月現在	看護学部の1年生の応援合戦への参加への支援を2年間おこなった。
2. 武庫川女子大学 広報委員としてキャンパスガイドの作成	2017年4月～2018年3月	大学広報委員として2018年キャンパスガイドの看護学部のページを担当した。学生の演習風景や学生生活が生き生きと伝わるように広報委員長、学生や大学本部の広報と調整しながら作成した。
3. 箕面市民病院 看護師	2010年5月～2014年3月	婦人科、内科の混合病棟にて看護師として勤務した。
4. 奈良県立医科大学附属病院	2006年4月～2006年12月	集中治療室で看護師として勤務した
5. 市立豊中病院 看護師 外科・救急病棟勤務	2006年1月～2010年3月	外科・救急病棟3年、小児科1年看護師として勤務した。臨地実習指導者の役割を担当した。
6. 市立豊中病院 看護師 外科・救急病棟勤務	2002年4月～2006年3月	外科・救急病棟で看護師として勤務
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. メタアナリシスによる看護師が行う疼痛管理教育の評価と具体的支援の検討	単	2014年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士前期課程 学位論文	メタアナリシスの手法を用いて、看護師によって行われたがん疼痛管理教育の効果を評価した臨床研究にむけた基礎的研究。看護実践としてがん患者に疼痛管理のセルフケアができるように支援することで疼痛緩和効果に貢献することを明らかにした。追加解析として感度分析を行って、具体的にどのような方法や内容で教育支援すると高い効果がもたらされるのかを検討し、方法や内容に関する示唆を得た。
3 学術論文				
1. 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの評価—振り返り用紙による質的検討—(査読付)	共	2018年5月11日	日本緩和医療学会誌	開発した終末期ケアシミュレーションを実施した後、学生が記載した振り返り用紙を質的に分析し、終末期ケアシミュレーション中に学生がどのような体験をしたのかを明らかにし、今後どのように終末期ケアシミュレーションを発展させていくのかを検討した研究。研究の構想、デザイン、データ収集、分析、論文の修正に関与した。 犬丸杏里、 <u>玉木朋子</u> 、横井弓枝、富田真由、藤井誠、辻川真弓
2. 看護基礎教育における終末期ケアシミュレーションシナリオの開発と評価：フロー体験チェックリストを用いた無作為比較試験による検討 (査読付)	共	2018年3月	日本看護科学学会誌	看護大学生を対象とした、終末期ケアシミュレーションを開発し、学生がシミュレーション体験中にフローを上昇させることができたのか、そしてそのシナリオの量的バランスや挑戦レベルについて評価している。 研究の構想、デザイン、データ収集、論文執筆、修正のすべてにおいて関与した。 <u>玉木朋子</u> 、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
3. Prognostic factors in patients	共	2018年In Pr	International Journal	積極的な化学療法を受けた終末期患者の予後予測因

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
who received end-of-life chemotherapy for advanced cancer		ess	of Clinical Oncology	子について後方的に検討した研究。データの生理、解析、論文中の図表の作成を担当した。 Shuji Hiramoto, Tomoko Tamaki, Ayako Kikuchi, Tetsuo Hori, Akira Yoshioka, Akira Inoue
4. 家族が介護できない虚弱高齢者の漂流—医療的ニーズが「終の住処」を脅かす(査読付)	共	2017年4月	未来共生学	医療ニーズが必要な高齢者は介護施設に入所することが困難なことが多く、終の棲家にたどりつくまでに、社会的入院や医療処置可能な老健への短期入所を繰り返しながら療養していることを看護師からのインタビューを質的帰納的に分析し、実態を把握した研究。データ収集、分析、論文執筆・修正に関与した。 玉木朋子, 大達亮, 大野ゆう子, 伊藤美樹子
5. 単一施設における終末期進行がん患者の入院後早期死亡に関する後方視的研究	共	2017年11月10日	日本緩和医療学会誌	進行がん患者の終末期における入院後早期死亡患者の実態について2011年8月～2016年8月に死亡した進行がん患者を対象とし後方視的に検討した。データ整理と解析、論文修正に貢献した。 堀 哲雄, 平本 秀二, 菊地 綾子, 吉岡 亮, 玉木朋子
6. Nurses' Experiences of End-of-life Care in Long-term-care Hospitals in Japan: Balancing Improving the Quality of Life and Sustaining the Lives of Patients Dying at Hospitals	共	2017年11月	Asian Nursing Research	終末期の超高齢者の看取りの経験について特養施設の看護師にインタビューし、終末期超高齢者看取り看護特有の経験や思考過程についてまとめた。分担研究のため担当部分抽出困難。 Ryo Odachi, Tomoko Tamaki, Mikiko Ito, Taketoshi Okita, Yuri Kitamura, Tomotaka Sobue
7. 世界および日本の肝内胆管がんの動向とその要因 (査読付)	共	2015年	JACR Monograph 21, 3-10	ある印刷会社で胆管がんの罹患が頻発する事象が発生した。その会社特有の罹患の傾向を把握するために世界、および日本の動向をまず把握するためにおこなった解析結果。分担研究のため担当部分の抽出困難である。 歌田真衣, 大野ゆう子, 玉木朋子, 祖父江友孝, 圓藤吟史
8. The burden of rare cancer in Japan: Application of the RARECARE definition (査読付)	共	2014年	Cancer Epidemiology (38) 490-495.	希少がんに対する対策の必要性ががん対策基本法で言及されたが、日本には希少がんの定義がない。EUで希少がんについて定義した先行研究をもとに日本のがん登録データを使用して部位・組織系ごとに分類し、日本における希少がんについて検討した。データ整理、解析、論文執筆、修正を担当した。 Tomoko Tamaki, Yiqi Dong, Yuko Ohno, Tomotaka Sobue, Hiroshi Nishimoto, Akiko Shibata
9. Long-term trends of the incidence and mortality of intrahepatic and extrahepatic bile duct cancer in Japan (査読付)	共	2014年	Journal of Epidemiology, 24 (3) 193-199.	印刷業従事者の胆管がんの罹患の多発が報告されたことに関連し、日本における全体的な傾向と比較するために、長期的な胆管がんの罹患と死亡の傾向を部位別、性別別、年齢別に解析、検討した。本人担当部分：研究計画の補助、情報収集、解析 Mai Utada, Yuko Ohno, Tomoko Tamaki, Tomotaka Sobue, Ginji Endo
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 模擬患者と協働した終末期ケアシミュレーション教育の評価：無作為化比較試験による検討	共	2018年9月	第31回日本サイコロジ学会総会	模擬患者をつかった終末期ケアシミュレーションを2017年度に実施し、そこで得られた教育効果について発表をおこなった。研究の構想、デザイン、データ収集、解析、成果まとめ、発表すべてに関与。 玉木朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、藤井誠、井上勇太、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
2. 終末期がん薬物治療における予後予測因子と終末期症状についての検討	共	2018年7月	第16回日本臨床腫瘍学会学術集会	平本秀二、玉木朋子、堀哲雄、菊池綾子、吉岡亮、横瀬みどり、松本剛
3. Prognostic impact of end-of-life chemotherapy in the last weeks for patients with advanced cancer	共	2018年10月	ESMO 2018 congress	S.Hiramoto, A.Kikuch, A.Yoshioka, T.Tamaki
4. Development and evaluation of a formulated end-of-life simulation scenario for undergraduate nursing students using an objective structured clinical evaluation	共	2017年3月	EAFONS 20th	Tomoko Tamaki, Anri Inumaru, Yumie Yokoi, Mayu Tomita, Michiko Kido, Yuko Ohno, Mayumi Tsujikawa
5. Current Status and Problems Concerning Fundamental Competencies	共	2017年3月	EAFONS 20th	アクティブラーニングを授業に導入し、看護大学生の社会人基礎力の変化を評価した。 Masako Hirano, Masako Miyazima, Kaori Fujimoto, Tomoko Tamaki, Nanae Ikeda
6. End of Life ケアシミュレーション	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会	玉木朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、辻川真

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ンの無作為化比較試験による教育効果の評価 - 知識テストとOSCEによる検討 -			会学術集会	由美、藤井誠、井上勇太、木戸倫子、大野ゆう子
7. End of Life看護シミュレーション教育の評価 - 振返り用紙による検討 (第2報) -	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会学術集会	犬丸杏里、 <u>玉木朋子</u> 、横井弓枝、富田真由、辻川真弓
8. A picture of death after the admission of advanced cancer patients at the end-of-life		2017年10月28日	ASCO pallonc(palliative care in oncology symposium)	Shuji Hiramoto, Tetsuo Hori, Ayako Kikuchi, Akira Yosioka, <u>Tomoko Tamaki</u>
9. がん患者の痛みに対する効果的な看護支援内容の抽出	共	2016年9月	第29回日本サイコロジ学会学術総会	玉木朋子、辰巳友佳子、竹内佐智恵、木戸倫子、大野ゆう子
10. End of Life看護シミュレーション教育の評価 振返り用紙による検討	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会	犬丸杏里、 <u>玉木朋子</u> 、横井弓枝、富田真由、辻川真弓
11. End of Life 看護シミュレーション教育の評価-シナリオの開発とフローによる評価-	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会	玉木朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
12. End of Life看護シミュレーション教育の評価 ResilienceとSelf-esteemによる検討	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会	横井弓枝、 <u>玉木朋子</u> 、犬丸杏里、富田真由、辻川真弓
13. 家族介護者が高齢者の在宅介護・看取りを実現した背景-遺族のインタビューから-	共	2016年10月	第75回日本公衆衛生学会	阿賀はるか、山本真理子、眞浦有希、 <u>玉木朋子</u> 、大達亮、本多智佳、伊藤美樹子、大北全俊、喜多村祐里、祖父江友孝
14. 終末期高齢者における家族介護者の人工栄養に対する態度と看取りの自己評価	共	2016年10月	第75回日本公衆衛生学会	山本真理子、眞浦有希、阿賀はるか、 <u>玉木朋子</u> 、大達亮、本多智佳、伊藤美樹子、大北全俊、喜多村祐里、祖父江友孝
15. 病院で死亡した80歳以上の高齢者に実施された医療とそれに対する看護師の評価	共	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会	<u>玉木朋子</u> 、大達亮、城本友恵、伊藤美樹子
16. 卒前教育におけるシミュレーションの活用と効果に関する文献レビュー	共	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会	富田真由、犬丸杏里、 <u>玉木朋子</u> 、横井弓枝、辻川真弓
17. 療養病床における終末期高齢者への看護実践の特徴と課題について	共	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会	大達亮、 <u>玉木朋子</u> 、城本友恵、伊藤美樹子
18. 急性期病棟での終末期高齢者の肺炎治療の課題 80代の病院死亡事例より	共	2015年11月	第74回日本公衆衛生学会	阿賀はるか、大達亮、 <u>玉木朋子</u> 、城本友恵、佐道准也、多田世奈、山本真理子、本多智佳、伊藤美樹子、喜多村祐里、祖父江友孝
19. 医療施設で死亡した80歳以上の高齢者の入院の生起と医療サービス提供の特徴	共	2015年11月	第74回日本公衆衛生学会	玉木朋子、大達亮、城本友恵、佐道准也、山本真理子、阿賀はるか、本多智佳、喜多村祐里、祖父江友孝、伊藤美樹子
20. The characteristics of medical care provided during the last hospitalization of elderly patients who died in hospital in Japan	共	2015年10月	IAGG	<u>Tomoko Tamaki</u> , Ryo Odachi, Tomotaka Sobue, Kei Hirai, Chikako Honda, Junya Sado, Tomoe Shiromoto, Mikiko Ito
21. 日本の稀少がん罹患の実態 EUの稀少がんの定義の適用	共	2013年10月	第72回日本癌学会総会	柴田亜希子、 <u>玉木朋子</u> 、董 乙き、大野ゆう子、祖父江友孝、西本寛
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 未来共生学	共	2017年4月	未来共生学, 4	座談会「超高齢社会との共生を考える」で高齢者の研究を専門とする医師、保健師、看護師の座談会の一員として参加。未来共生学4号の特集として掲載されている。
6. 研究費の取得状況				
1. EOLシミュレーション教育の教育効果の評価とシナリオの発展に関する研究		2017年4月	科学研究費基金・基盤C	
2. 卒前教育におけるEOL看護シミュレーションシナリオの開発と有効性の検討	単	2015年10月	研究活動スタート支援	

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年~現在	兵庫県看護協会服飾支援研修フィジカルアセスメント担当
2. 2015年4月~現在	日本公衆衛生学会
3. 2015年4月~現在	日本看護科学学会

学会及び社会における活動等

年月日	事項
4. 2012年4月～現在	日本サイコオンコロジー学会